

# SAIKYO BANK

MINI DISCLOSURE 2020

ミニディスクロージャー誌  
第113期(中間期)事業のご報告

一人でも多くのお客さまに  
「さすが西京」の  
サービスを。

第17回 スペシャル対談

これからの山口県に求められる  
ライフ・イノベーション・リーダー

山口県立大学長 加登田 恵子 さん

# 「地域の皆さまのお役に立つ！」 銀行を目指して

取締役頭取 平岡 英雄



皆さま方には、平素より西京銀行に格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび2020年9月期における当行の業績や地域貢献に関する取組み等をまとめたミニディスクロージャー誌を作成いたしました。ぜひ一読いただき、当行に対するご理解を深めていただければ幸甚でございます。

さて、わが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルが引き上げられていくなかで、各種政策の効果により家電や新車販売台数、国内旅行といった個人消費の回復、それに伴う企業活動に持ち直しの動きがみられるものの、感染症の影響は依然不透明であり、引き続き国内外の経済動向に注視する必要があります。

こうした中、当行では、中期経営計画の長期ビジョンである「地域に根差した中小・小規模事業者さまと個人のお客さまのための銀行」を目指して、感染拡大の影響を受けられた法人・個人のお客さまへのサポートを最優先に取り組んでいるほか、こうした外部環境の変化に合わせた商品・サービスの充実に努めております。

具体的には、企業と留学生の就職交流会「Job Hunting」を初めてオンライン開催したほか、紙の通帳を記帳しなくても口座のご利用明細や残高がスマートフォンで確認できる「通帳アプリ」を導入するなど、非対面サービスの充実に取り組んでいます。

当行はこれからも、「金融を通じて地域の皆さまのお役に立つ」というミッションの下、一人でも多くのお客さまにお取引いただける銀行を目指し、引き続き努力してまいります。

今後とも、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 【企業理念】ACT-BANK

- A** active bank  
▶ 地域を活性化する銀行
- C** communication bank  
▶ お客さまとのコミュニケーションを大切にする銀行
- T** trend bank  
▶ 時代のニーズを先取りし創造していく銀行

## 【プロフィール】(2020年9月30日現在)

本店所在地 ▶ 山口県周南市平和通1丁目10番の2

創業 ▶ 1930年

資本金 ▶ 234億9千万円

従業員数 ▶ 866名

(注) 従業員数は、嘱託及び臨時従業員数156名を含む。

## 2020年9月期 決算ハイライト(単体)

### 地元から地元へ 資金の地域内循環

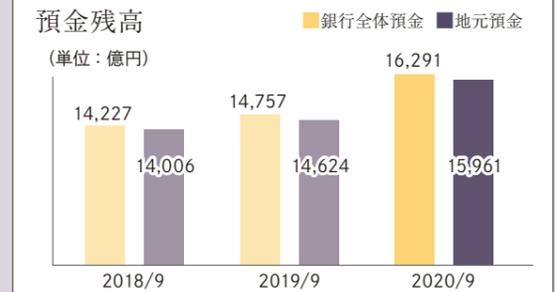
(地元：山口県・広島県・福岡県)

#### 預金

1兆6,291億円

前年同期比+1,533億円

うち地元割合 ▶ 97.9%

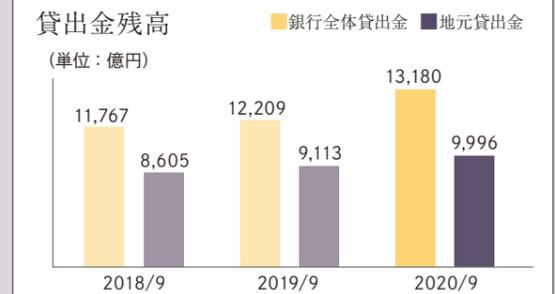


#### 貸出金

1兆3,180億円

前年同期比+970億円

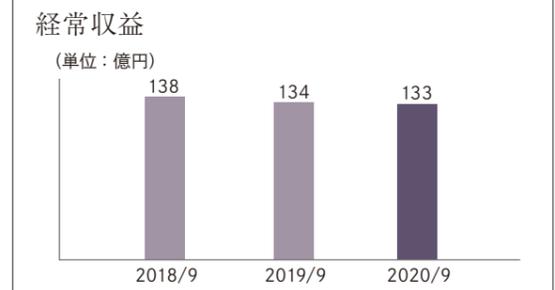
うち地元割合 ▶ 75.8%



#### 経常収益

133億60百万円

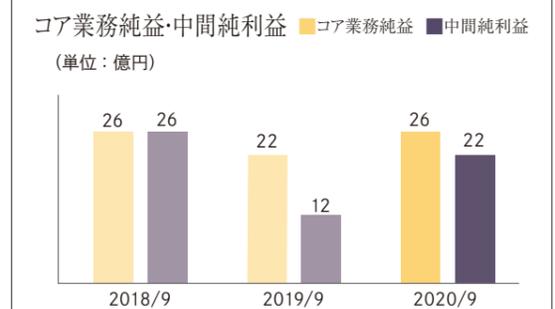
前年同期比▲1億26百万円



#### コア業務純益 (除く投信解約損益)

26億99百万円

前年同期比+4億47百万円



#### 中間純利益

22億86百万円

前年同期比+10億63百万円

これからの  
山口県に求められる  
ライフ・イノベーション・  
リーダー

西京銀行 取締役頭取  
平岡 英雄  
山口県立大学 学長  
加登田 恵子



地域の社会福祉問題に取り組みながら、学生と異世代の住民が交流できる学習拠点を作り、新しい価値を生み出す人材の育成に力を注がれている加登田学長。社会福祉の道に進まれたきっかけや、大学と地域のあるべき学びの形、山口県と地方創生について、平岡頭取が伺いました。

### 戦争の名残を感じながら 社会福祉の道を選ぶ

**平岡** 本日は宜しくお願いいたします。偶然にも加登田学長と私は広島市の同じ小学校の同級生でした。

**加登田** 私たちは高度経済成長の申し子の世代ですが、昭和40年代前半までは、まだ戦争の名残りが至る所に残っていましたね。

**平岡** そうでしたね。私は小学校6年から宇部に転校しましたが、加登田学長は、それから広島に大学に進学され、社会福祉の道に進まれました。

**加登田** はい。広島市の中心地域で生まれ、身近な生活の中に原爆の名残があり、子ども心にも、そんな広島を哀しさを感じながら育ったのだと思います。

少し上に団塊の世代がいて、私たちは思春期の多感な頃に、70年安保の学生運動を見ていた「谷間の世代」でした。「シラケ世代」とか「三無主義」(無気力・無関心・無責任)とも言われたりしましたね。社会の歪みや哀しさは感じているのに、一方で無力感と言うか、どこか冷めた自分がいて、隔靴搔痒のようなものを感じていたように思います。ただ、小さなことでも何か社会のお役に立ちたいという想いはずっと持っていました。

**平岡** 人の助けになりたいというお気持ちが根底にあり、社会福祉の道を選ばれたのですね。大学卒業後は日本女子大学大学院に進まれ、同大学助手などを務められました。

**加登田** 元々、社会福祉学は「実践の学」なのですが、大学で学んだ後も、実際の現実と学問の間にあるギャップを感じていました。東京では恩師と呼べる先生やボランティア活動

でさまざまな人との出会いに恵まれ、道標を得たことが、その後の活動に生かされていったように思います。

**平岡** 1994年に貴学へ赴任されました。教授として社会福祉学部の教壇に立ちながら、NPO活動などを通じて、障害児の療育や自立支援、DV被害者支援という、地域の諸問題に対して、自ら先頭に立って支援活動を展開されてきました。

**加登田** 山口県内に初めてできた公立大学の社会福祉学部ということで、地域の皆様から期待が寄せられておりましたので「私でお役に立つことがあれば」と関わらせていただきました。むしろ私が地域の皆さんに育てられたという感じでした。

特に1998年のNPO法(特定非営利活動促進法)は一つの転機で、地方でも住民の手による福祉活動づくりが始まり

ました。実際に障害児の親御さんたちと事業所を開設したり、DV被害者支援の一部を手伝わせていただくことを通じて、研究と実践の相互に携わることで、文献に書かれている言葉の重みやニュアンスを学生に伝えたり、その深さを判断できるようになったのではないかと思います。これからも、できる限り応援していきたいと思っています。

### 地域との「共生」をテーマに 異世代が集まる学びの場を構築

**平岡** 学内では「地域貢献型大学」の先導役としての役割も果たされました。2012年、大学と地域社会を結ぶために学内に設置された「地域共生センター」の所長に就任され、2016年からは、大学の地域貢献事業を統括する任務を

担ってられました。

**加登田** 私が地域共生センター所長だった2013年に、文部科学省「大学COC事業」の採択を受けたのですが、この頃から、地域創生と高等教育機関の役割を改めて見直すことになりました。私自身、地域に育てられた想いがありましたので、大学と地域の相互関係による新しい枠組みを作りたいと考え、「共生」をキーワードに「共生研究」と「共生教育」という2つの柱を打ち出しました。

「共生研究」は、研究者の専門分野を超えて、地域の方々と交えて一緒に研究チームを作り地域課題について研究する取組みで、「共生教育」は、現役の学生と地域の方が共に学ぶことをコンセプトとした活動です。現在の履修認定制度の走りのようなものですが、「桜の森アカデミー」という異世代交流学習拠点を創設して、地域の方がまとまりのある単位をとって大学認定の資格が取得できるような仕組みにしたのです。

世代を超えた学びのコミュニティというのは、本当に有意義で楽しく、学生も地域の人々も元気になっていくのを実感することができました。

**平岡** さまざまな世代の地域の方たちと交流しながら学べるというのは、学生にとっても良い刺激になるでしょうね。

**加登田** とても良かったですね。学生たちにとって意味のある出会いの機会を作ることができたのではないかと思いますし、地域の皆さんもエネルギーを貰ってとても元気になられるということを実感しました。学生をとっても可愛がってくださいます。

この取組みは、文科省や総務省からも評価をしてもらいましたし、今後はさらに地域と大学がwin-winの関係を築き、リカレント教育など次の展開へ発展していきたいと考えています。

※大学COC事業：2013年度から、文部科学省が大学を対象に「地域社会との連携強化による地域の課題解決」や「地域振興策の立案・実施を視野に入れた取組み」を支援した施策。2015年度から、趣旨・目的を発展させて「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に継承された。



## 少子高齢化先進県だからこそ「山口らしい豊かさ」を提案

**平岡** 加登田学長は、大学が育成する人材像として「ライフ・イノベーション・リーダー」を掲げておられます。

**加登田** 人生や生活、生命のあり方を改革して、「新たな価値」を創造し、地域社会に大きな変化をもたらす人のことです。「リーダー」としたのは、地域の核となる、牽引する人になってほしいという想いからです。

本学では、看護師、管理栄養士、社会福祉士などを養成する課程がありますが、国際文化学部と一緒にあるということは、とても強みだと考えています。となく、国家資格を有する人材専門職養成は、国家試験科目の学習のみに追われがちですが、例えば、外国人との交流が得意な看護師や社会福祉士、また、高齢者ケア付きの観光コースをプランニングしたり、山口県の自然をフルに生かした高齢者向け国際交流イベントを企画するなど、クロスボーダーの知識や柔軟な発想力があれば、専門性を踏まえた上で、生活を豊かにするさまざまな活動を創造できると考えています。

**平岡** これからの時代、これからの山口県に求められる人材像でもありますね。

**加登田** そうですね。少子高齢化の課題先進県であり、さらに急速な人口減少が予測されている山口県にこそ、住民のライフ「命・生活・人生」をより人間らしく質を高めるために、挑戦的な志と柔軟な発想、知恵を持ち、足元から実行する力のあるライフ・イノベーション・リーダーが必要です。



**平岡** 少子高齢化の問題は、世界の先進国の中でも日本の取組みが一番のモデルになるはずですし、中でも山口県はその最たる例であると思います。

**加登田** イノベーションとは、効率化や省力化ではなく、価値の付加だと捉えています。物量や貨幣で表すものだけではなく、例えば少人数でも実現できるアイデアや発想のことです。こういった考え方が根付けば、豊かさの中身も変わるといいますし、私たちは「山口らしい豊かさ」を全国に提案することができます。一番重い課題を持った場所で行うチャレンジこそが、最先端になると信じています。

## 足元にある幸せを育み 発信力を備えた人材の養成を

**平岡** 卒業生たちがライフ・イノベーション・リーダーとして、各地で活躍されていますね。

**加登田** フィンランド・ヘルシンキに住んでいて世界的な人気アパレルブランド「マリメッコ」を手がけるファッションデザイナーや、山口の県木であるアカマツを材料に、独自のろくろ技術でオブジェを制作する木工作家があります。二人とも、山口の自然や風土から触発された作品を創っていて、むしろ海外の方で評価されているかもしれませんね。他にも、フェルト作家や旅行のプランニングなどいくつかの仕事マルチに営んでいる中国人の留学生など、ユニークな人材がたくさん育ってくれています。彼らに共通しているのは「インターローカル」の志向性です。これからの時代は、小さくても光る、良質で、多様で、ヒューマンな豊さを、地方から発信することが



求められると思います。

**平岡** ここで情報発信が特に重要になりそうですね。いくら良い商品やサービスを作っても、周りに知ってもらわなければいけませんし、注目を浴び商業ベースに乗せるためにも、発信を続けてほしいですね。

**加登田** おっしゃるとおりで、山口の人は発信するのが苦手なイメージがあります。価値の発見・創造と共に、発信力のある人材を養成しなければなりませんね。

**平岡** 最後に、これからの時代の金融機関として、西京銀行に対してご意見やアドバイスをいただけますか。

**加登田** 御行は、地元の中小企業を大切に、応援されている姿勢が素晴らしいと思います。足元を大切に、リアルコミュニケーションを行っておられます。

また、大学などの教育機関と企業との橋渡しなどをされるなど、汗をかいてネットワークを作ろうとされています。特に山口県において、ネットワークづくりは、地方創生のキーワードになりそうですね。

本学が目指す地方創生のコンセプトと共通する部分が多いので、一緒になって、情報発信と人材育成を行うことができるといいます。幸せは足元にあります。新しい幸せの形を作り、発信する。発信力のある人材をぜひ育成しましょう。

**平岡** 地域のお役に立つことを使命とする当行としても、ぜひ、いろいろな形で協力をさせていただきたいと思っております。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

この対談は2020年9月11日に行われたものです。(場所：山口県立大学)

## GUEST PROFILE

山口県立大学長  
**加登田 恵子** Katoda Keiko

1955年、広島県広島市生まれ。広島女子大学文学部社会福祉学科(現：県立広島大学)に進学。日本女子大学大学院文学研究科博士課程前期修了(社会学修士)後、日本女子大学文学部社会福祉学科助手。1994年、山口県立大学社会福祉学部助教授として赴任。2003年に同学部教授。研究分野は社会福祉学。2010年、社会福祉学部長、2012年、地域共生センター所長、2016年、副学長(地域貢献担当)兼地域共生センター所長に就任。2018年4月から現職。

## 一人でも多くのお客さまに、「さすが西京」のサービスを。

西京銀行グループは、国連において採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向け、地域の課題解決と持続的な成長に貢献してまいります。

### ① 地域社会・経済の活性化への取組み



**新型コロナ対策 応援定期預金**

やまぐち 寄付金付 最大500万

店頭金利の **50倍!** 預入期間 **1年** **年0.10%** 最大500万円を **山口県に寄付**

### ② 多様な人材の活躍を推進



## 企業と留学生の就職交流会 JOB Hunting



初のオンライン開催  
学校や自宅から  
リラックスして参加

### ③ ペーパーレス化による環境保全



## さいきょう「かんたん通帳」アプリ

※個人のお客さま対象

紙の通帳と同じスタイルで表示されます!



利用料0円  
検索・メモ機能付き



さいきょうインターネットバンキングのご利用はこちらから



通帳アプリダウンロードはこちらから

### ④ 住みよいまちづくりのために



## 小野田支店新築移転オープン

地域のランドマークである山陽小野田市役所正面に移転



# - ACT SAIKYO - おかげさまで創部10周年!



## ACT感謝Day 開催!!

応援いただいている企業さまを訪問し、感謝の気持ちを直接お伝えしました。

120先の  
企業さまを  
訪問!

小宮山コーチとともに日頃の感謝を。



齋藤菜選手(下松支店取引先)

新加入の水津選手!



水津優衣選手(末武支店)

営業店もACT一色に!



日の出支店

新しいポスターと色紙をプレゼント!



重田美空選手(防府支店取引先)

山口県を  
バドミントン王国に!

手作りパンフレットでPR!



柏原みき選手(柳井支店取引先)

ファン拡大のために一致団結!



加藤美幸選手(湯田支店)

引き続き、地域の皆さまから愛されるチームを目指して活動して参ります!

## 中国地区総合バドミントン選手権大会 in 岡山 (9月19~21日)

今シーズン初の公式戦が無観客開催され、表彰台を独占しました!

### ◆女子ダブルス

優勝	川島、齋藤夏 ペア
第2位	柏原、加藤 ペア
第3位	中村、今井 ペア

### ◆混合ダブルス

優勝	重田、桐田(宇部興産) ペア
第2位	齋藤夏、栗木(宇部興産) ペア
第3位	加藤、古城(宇部興産) ペア

### ◆シングルス女子

第3位	齋藤栞
-----	-----

会場でお会いできる日を  
楽しみに、猛練習中です!



## コロナ禍のトレーニング

新型コロナウイルスで各大会が中止となる中、選手たちはモチベーションを維持して練習しています!

他チームとの合同練習で真剣勝負!



カトカシ(加藤美幸・柏原みき) ペア

選手全員で切磋琢磨し、マシンで力走!



日々10km以上の走り込み!



基礎練習も欠かさず、フォーム確認!



林樂選手

10年の感謝をチカラに。



ACT SAIKYO

山口県をバドミントン王国に。



ACT SAIKYO  
活動状況